

III 学校研究

(1) 昨年度のふり返り

まず「きく」そして「話す」 ～「わからない」を大切にする教室へ～

これまでの研究をふり返って

令和7年度、特に頑張りたいことは…

子どもの姿から

- ・「きく」こと（聞く、聴く、訊く、なんなら利く？・効く？）
- ・子ども同士のかかわりをレベルアップする（まずきく、そして話す）
- ⇒「わからない」を、子ども達全員が価値あるものだと心から思えるように。
- ⇒「わからない」と自ら声に出せるように。
- ⇒「わからない」の伝え方、引き出し方 …学びに向かう力・学び合う子どもたち
- ・自分の学びは自分で決める（人まかせにしない、ねばりづよく、自分に合った方法、よりよい方法…）
- ・自分の学びをふり返る（もう一度自分で）

教師の姿から

- ・「やってみたい！」「考えたい！」「おもしろい！」が生まれる課題をつくること。
- ・生活・総合もふくめ、様々な教科での「共有の課題」と「ジャンプの課題」

… カリキュラムマネジメント力・教材を見きわめる力

- ・ファシリテート力。

⇒子どもたちの思いをきく力。子どものすぐたを見とる力

子どものつぶやき、疑問を拾い学びのタイミングを見逃さない …

子ども同士をつなぐ 全体で共有するタイミング

子どもを見きわめる

教師の居方

授業を見きわめる力

本当にわからない子たちをさてどうする？？

- ・「わからない」を大切にした授業づくり。日常の授業を大切に。

研究の日常化

⇒「学び合うすぐた」を共有したい！

森田先生のお話から

- ・教えることはきくこと、学ぶことは語ること
- ・支え合うために教室はある。一人も独りにしない
- ・「きいてどう思った？」「あなたはどう思う？」
- ・ほんものの「わかりません」 ×学びの偽装
- ・“超低学力”的子たちとどうむきあうか
- わからない子たちが元気になる教室「オレにわかるように説明してみろよ」
- ・いちばん説明する（語る）べきは“中くらい”的子どもたち